

時空をこえて

貴重書の世界

街頭紙芝居の世界

とき

この写真、ある程度の年齢の方ならご存知かもしれませんね。一昔前まで日本のあちこちで上演されていた「街頭紙芝居」です。

紙芝居の前身は、江戸時代の糸繰り人形劇「立ち絵」にあります。この頃から見物として絵などが売られていたようです。現在見られるような、一枚の場面ごとに解説を語る様式は、昭和3年頃から盛んになりました。この絵物語形式の紙芝居は、画家が画用紙に描いた絵を厚紙に張り、ラッカーやワニスでコーティングしたもので、大きさは縦26センチ、横36センチくらいに作られます。

昭和5年には名作「黄金バット」が誕生し、子どもたちに絶大な人気を呼びました。街頭紙芝居は全国に普及し、昭和10年前後には最盛期を迎えました。戦後、街頭紙芝居は急激な復興をとげ昭和23年には戦前と並ぶ3万人もの紙芝居屋が数えられ、第二の全盛期となりました。

本館には、仙台最後の紙芝居屋さん・井上藤吉氏よりの寄贈で、約4万枚(203タイトル5,317巻)の街頭紙芝居を所蔵しています。その一枚一枚が手描きで、東日本最大のコレクションです。



上『山の子大作』新日本画劇社
下『鞍馬天狗』関東オール画劇社



『赤胴赤鬼金之助』関東オール画劇社

わたしのこの一冊

My Favorite Book

『天の夕顔』決定版

中河与一 著 明治書院 1986年

「言葉」で描かれた水彩画 中河与一の世界

小牛田町 青木 郁子

魅力的な小説にも二通りあると思う。まず強い衝撃を受けて、人間や自然、宇宙などに深く思いを致すもの。もう一つは、筋書きのおもしろさや、文章と描写の美しさゆえに、酔うように引かれてゆくもの。『天の夕顔』(昭和十三年)は後者かも知れない。

京都に学ぶ大学生の「わたくし」は、一人の既婚女性と出会う。憧れと尊敬から、熱烈な恋へ…。相手の幸福を願う

理性と思慕の情のはざままで、己に克つべく、雪の山中にこもってもみる。しかし、断ち切ることもできずに二十余年。ただ一人の女性を思うことに費した人生。「一生を棒にふるった愚かな男」と自嘲する。二十三年めにしようやく恋が成就しようとしたその日、女性は病で天に召されてしまう。「わたくし」は、この世で遂げられなかった積年の思いを托して花火を打ち上げる。夕顔のような大輪の花びらが、暗い夏空に消えてゆくその瞬間、天にいるあのひとが「わたくしの思いを摘み取った(受け容れた)」と考えて自分の人生を肯う。

今の時代は、愛のあり方も多様を極め、とどまる処を知らない。そのような時代にこの小説を読むと、痛々しいまでに禁欲的な恋愛も、その悲愴感を越えて、甘美な新鮮ささえ覚えてくる。

作家達が上梓した本を送ってくると、手に取ることなく古本屋に売り飛ばした永井荷風も、唯一、完読して激賞したのが、この『天の夕顔』だったという。

図書館からのお知らせ

休館のお知らせ

年末年始および資料の特別整理期間のため、下記の期間は休館します。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

年末年始の休館日

平成14年12月29日(日)~平成15年1月4日(土)

特別整理期間のための休館日

平成15年1月28日(火)~平成15年2月9日(日)

* その他の休館日は、月曜日・館内整理日です。

宮城県図書館所蔵自筆原稿特別展 みやぎをめぐる文人たち~その筆跡と足跡~
日本近代文学史を代表する文人たちやみやぎゆかりの文人たちの自筆原稿等を展示しています。

期間:平成15年3月28日(金)まで(休館日を除く)

時間:午前9時30分~午後5時

場所:2階 展示室

ことばのうみ

題字 作家・高田 宏氏

本誌タイトル『ことばのうみ』は、本館第8代館長・大槻文彦編者による日本最初の近代的国語辞典『言海(げんかい)』(1889~1891年刊行)に由来する。

第12号 2002年11月発行

編集・発行 宮城県図書館

〒981-3205 仙台市泉区紫山一丁目1番地1

TEL 022-377-8441

(代表) FAX 022-377-8484

ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/library/>

デザイン/印刷 株式会社共同印刷



表紙エッセイ/瀬名秀明さん

せな・ひであき。作家。1968年静岡県生まれ、仙台市在住。東北大学大学院薬学研究所(博士課程)在学中の1995年、「バラサイト・イヴ」で第2回日本ホラー小説大賞受賞。1998年には、「BRAIN VALLEY」で第19回日本SF大賞を受賞する。「八月の博物館」「ロボット21世紀」「あしたのロボット」など著書多数。2002年10月からは、河北新報で連載小説を開始した。

